

# 劔岳北方稜線

～宇奈月温泉から～

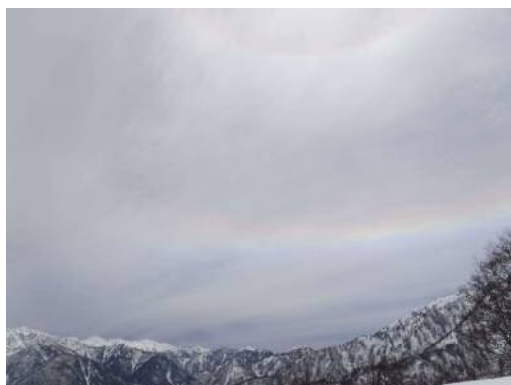
2019年4月28日(日)～5月3日(金)

L 柴田、岩代、K、久保田 J (記)

4月28日(日) 快晴

宇奈月駅前の駐車場で朝6時のオープン  
を待っていた。しばらくして愛想の良い  
職員が来て、黒部峡谷鉄道は翌日より全  
線開通のため1日900円の所、500円の  
日数分で良いと言う。スタートから2000  
円も得した気分だ。

軽量化したとは言え過去最高に重いザック  
を背負い宇奈月温泉スキー場(廃業)へ  
向かってアスファルトを歩く。1時間半  
ほどでスキー場上部の平和の像がある展  
望台を過ぎる。その頃には林道も雪面と  
なり第二広場より登山道へ入る。第三広  
場まで来ると空に虹の様なものが見えた。



(空に直線と円形の虹)

珍しい現象が見れてラッキーと思ったが  
後でネットで調べたらハロと環水平アー

クと呼ばれる現象で低気圧が通過する前  
で天気下り坂のサインらしい。

少し行くと下の見えない切り立った所を  
トラバースする。雪の状態が悪く怖さを  
感じた為、慎重に進む。1431Mの小ピーク  
を超えると展望が良くなった。少し行っ  
た所で予定より早いのが初日の疲れも有り  
幕営する事にした。日本海と能登半島ま  
まで一望できる最高のロケーションの中、  
チーズフォンデュとワインで入山祝いを  
した。



(幕営地より日本海の夕景)

《1日目タイム》

宇奈月駅P	7:00
展望台	8:30
第三広場	10:50
幕営地(1450M)	14:30

4月29日（月）快晴

左手に梅海新道の稜線、右手には富山湾を眺めながらアップダウンを繰り返し進む。



(僧ヶ岳ピークより駒ヶ岳方面)



(駒ヶ岳頂上直下)

駒ヶ岳を過ぎるとアップダウンに藪漕ぎエリアと雪庇エリアが加わった。

さすが日本海側、雪庇の張り出しがすごいが亀裂が入ったところもあり細心の注意で進んで行く。

藪漕ぎには思ったより悪戦苦闘し、予定していた幕営地までは進めなかった。



(藪から這い出る)



(1750M地点)

アルファ米にフリーズドライの夕食と、ウイスキーで体を温め就寝。

22時に雨の音で目が覚め、朝まで降り続く。

《2日目タイム》

幕営地	5:20
僧ヶ岳	8:10
駒ヶ岳	10:50
幕営地 (1750M)	14:30

4月30日（火）雨のち曇り

3時に起床予定だが雨が強く起床時間を遅らせる。停滞と思ったが小ぶりになり準備をしていると同時期に入山した2パーティのうち東京の山岳会の3人が私達のテントの横を挨拶して通りすぎて行った。

私達も準備を済ませ9時半頃に出発。ようやく雨も上がる。

今日もアップダウンに雪庇と昨日より濃い藪との闘いだ。



(滝倉山への登り)



(木に乗り、雪庇との間を抜ける)

雪庇と藪の間を歩く区間はペースが上がらない。



(張り出した雪庇)

この日は雨で出発が遅れたのと濃い藪で、2泊目の幕営地にたどり着くのがやっとだった。(予定より1日遅れ)



(幕営地より谷側の眺め)

昨日同様、アルファ米にカレーの夕食。ウイスキーは予備日分を考慮して節約して飲んだ。

《3日目タイム》

幕営地	9:30
1801Mピーク	10:24
滝倉山	13:20
幕営地	14:25

5月1日（水）雨

テントをたたみ出発寸前に小雨が降り出す。すぐに止むだろうと思っていたが、雨は降り続きビバークする場所もなかったため1日雨に打たれる事になった。

幕営地よりコルまで降りて行き、登り返すと藪の細尾根をたどり岩稜手前で一旦下降するがリーダーが先行すると雪の状況が良くないのでロープ出して25M懸垂下降する。トラバースして再び尾根へ上がるとウドの頭手前で切れ落ちているので再び25Mの懸垂下降。休憩もあまりとる事もできず雨に濡れた寒さと足場の悪い所の緊張にひたすら耐えた。

ウドノ頭を超えてまた50M懸垂下降して一旦傾斜が緩くなりその先の急斜面にはバックステップで降りているトレースがついていたが、ガスって先が見えない。終わりの見えないバックステップほど怖い物はないと躊躇しているとリーダーが戻り横の藪の中を行けそうだと先行してくれた。



(幕営地よりコルへ)



(ウドノ頭手前岩稜)



(2回目懸垂下降)

また200Mほど登り返して西谷ノ頭を超えた所で行動終了。

《4日目タイム》

幕営地 5:40  
ウドノ頭 11:30  
平杭乗越 14:30  
西谷ノ頭 15:33  
幕営地 16:15

5月2日（木）雨のち曇りのち晴れ  
朝目が覚めると昨日からの雨は降り続いてきた。今日は、毛勝山への登りで「天国の坂道」と呼ばれるいる高低差400Mの雪壁を一気に登らなければならない。ガスで視界も無いため雨の止むのを待って9時半に出発した。

幕営地より下りてしばらくトラバースした後、直登が始まる。まだガスがかかっており上下ともに視界はない為、どこまで続いているのかわからない谷底に不安が掻き立てられた。

ステップを作りながら一步一步確実に登って行く。緊張で喉が渴ききっていたが1時間登り続けると途中に木が見えて休憩できる場所があったので助かった。半分くらい登ったと思っていたがここより先が更に長かった。時より吹く強い風に動作を一瞬止めるを繰り返し登る。見下ろすと果てしなく続く谷底が姿を現した。人間はわがままで、見えないのも怖いが見えるのもまた怖かった。見上げるとこれも遙か先に頂上を現すであろう白と青の境界線が見える。



（先は長い）

喉がくっつきそうなくらい渴いたが頂上直下の肩へ上がると終わりが見えた。



（山頂はガスが取れ360度の展望）

今日は毛勝山を越えて釜谷山直下で幕営。昨日までと比べて標高が一気に上がり雨で濡れ乾き切らない衣類が身体を冷やした。

《5日目タイム》

幕営地	9:30
毛勝山	13:30
釜谷山	16:00
幕営地	16:20

5月3日（金）快晴

悪天候によって計画より大幅な遅れの為、2日有った予備日も使い果たした状態でこのまま核心へ入るのは私達には無謀と判断しブナグラ谷より下山となった。今日は谷を下るだけと思っていたが、途中ブナグラ乗越へ降りる所で懸垂下降を強いられた。



（目の前に劔岳）



（最後の懸垂下降）

馬場島へ下りると待機していたタクシーへタイミングよく乗れた。上市駅まで行ってもらい富山電鉄で宇奈月温泉駅までは乗り換えなしで行けた。1週間分の汗を宇奈月温泉で流し帰路についた。



（ブナグラ谷へ下る）



（橋が落ちているので渡渉）

出発前には体力的にも技術的にも少し不安が有ったが、毎日何かしらの核心や、緊張を強いられる場面が有りて今回の山行ではかなり成長できたように思う。リーダー及びIさんありがとうございました。いつか今回行けなかった先をつなげたい。

《6日目タイム》

幕营地	5 : 30
猫又山	6 : 30
ブナグラ乗越	10 : 20
馬場島	14 : 30

(全工程の地形図)

